



「わかみメロン」品質高く出荷量、販売額増

「わかみメロン」の今年度の販売額が、前年度比109.4%の1億2976万円に上りました。今年度は大玉傾向かつ高糖度で生育し、出荷量が増加しながらも終盤まで高単価を維持。同比11%の4万7101ケースを出荷し、販売単価は昨年度に次ぐ高さの1ケース当たり2755円を記録しました。

11月16日(木)に若美支店で開かれた実績検討会では出荷実績が優れた生産者が表彰され、販売の部で渡部正司さんが、生産の部で大越春夫さんが、高品質安定生産の部で加藤美男さんが優秀賞を受賞しました。

📷 優れた出荷実績が称えられた生産者(右)



佐藤組合長が水田農業政策の強化を要請

11月13日(月)、JAグループ基本農政確立全国大会が東京都で開催されました。政府が食料・農業・農村基本法の改正や関連施策の具体化に向けた検討を進めるなかで、将来を見据えた強固な農業政策の確立を全国のJAの代表者らが要請しました。

北海道・東北地区JA代表者集会では、当JAの佐藤広美組合長が水田農業の現場からの意見を異常気象による減収などに触れながら表明し、「米は日本の食料安全保障の要。生産者が安心して稲作を続けられる施策を要望する」と両地区選出の国会議員に訴えました。

📷 米生産現場の窮状を訴える佐藤組合長



秋田米フォーラム2023

12月6日(水)、「秋田米フォーラム2023」が秋田キャッスルホテルで開かれ、令和5年産米「美味しいあきたこまち」コンテストの審査結果が発表されました。当JA管内からは佐々木博光さん(潟上市天王)が、優良賞(全農秋田県本部県本部長賞)を受賞しました。

昨今の災害や米の流通の変化、今年産米の生育経過などに関する講演も行われ、厳しい気象や激化する産地競争のなかで、秋田米ブランドの強化や品質向上、気候変動に応じた栽培技術の確立のため関係者が意識を高めました。

📷 入賞した県内の生産者と佐々木さん(後列中央)



スマサポ窓口対応コンで飯島支店に金賞

JA共済連秋田が主催する全県スマイルサポーター窓口対応コンテストの結果が発表され、飯島支店が最高賞の金賞に、追分支店が銅賞に選ばれました。県内JAの自動車共済の窓口における接遇や契約者に合った保障提案などの対応力を採点するもので、9月に行われたロールプレイングによる審査を経て、来店者に好印象を持たれる店舗づくりが評価されました。

11月20日(月)に行われた表彰式で両支店に表彰状が贈られ、24日(金)にはJA秋田なまはげ会館で役員が日頃の努力を称えました。

📷 受賞したスマイルサポーターの職員ら